



第88回 院内コンサート

♪ 演奏者プロフィール ♪



ヴァイオリン：青木 敦子（あおき あつこ）さん

桐朋学園大学附属女子高校音楽科から桐朋学園大学入学。同4年在学中にベルギー王立ブリュッセル音楽院に留学一等賞卒業。ベルギー放送局テヌート国際コンクール受賞。ベルギー国立交響楽団入団。帰国後はソリスト、室内楽、トークと演奏の「音楽セミナー」多数。ヴァイオリンを久保田良作、江藤俊哉、G.オクトール、D. オプノー各氏に師事、室内楽を藤原真理、岩崎淑各氏に師事。

ヴィルトゥオーゾ横浜メンバー。昭和音楽大学附属音楽教室講師。横浜音楽文化協会会員。



ピアノ：中島 慶子（なかじま けいこ）さん



桐朋女子高音楽科、同大学ピアノ科を卒業後渡仏。パリ、エコール・ノルマル音楽院に留学。演奏資格を取得後、さらにアルベール・ルーセルの奨学金を得てマスタークラスで学び帰国。オーケストラとの共演、ソロ、アンサンブルの分野で活動している。昭和音楽大学附属音楽教室講師、横浜音楽文化協会会員。



日時：令和元年10月19日（土）13時30分～

場所：亀田病院 新館待合ホール

協力：横浜音楽文化協会



第 88 回 院内コンサート

プログラムと曲目解説

エドワード・エルガー (1857~1934) :
ヴァイオリン・ソナタ ホ短調 OP.82

- 第 1 楽章 アレグロ
- 第 2 楽章 ロマンズ—アンダンテ
- 第 3 楽章 アレグロ・ノン・トロツポ

エルガーの「ソナタ」が書かれた時代は今から約 100 年前の 1918 年。第 1 次世界大戦が長引き、参戦していたイギリスのロンドンでも毎晩のような空襲を受け、人々は疲労困憊の状態でした。日頃から孤独を好むタイプだったエルガーは、絶望感からますます厭世的になり、サセックス州の片田舎のコテージに引きこもるようになりました。

このソナタはそのコテージで書かれ、エルガーの妻のアリスは、この作品の出来栄に大いに喜んで「(エルガーが散歩していた) 林の魔法」と言い、特に第 2 楽章は「これ以上ないくらい素晴らしい」と絶賛したそうです。

エルガーは、この曲を献呈するはずだったある婦人が完成直後に亡くなってしまったことを悼み、第 2 楽章「ロマンス」の中間部の大変美しいメロディを、第 3 楽章の最後のコーダの前に急遽挿入し、蘇らせています。

シрил・スコット (1879~1971) : タラハシー組曲 OP.73 No.4

- 第 1 曲 過ぎ去りし日の思い出
- 第 2 曲 日暮れ後
- 第 3 曲 黒人の歌と踊り

シрил・スコットはエルガーより 20 年ほど後に生まれたイギリスの作曲家です。幼少から楽才を発揮し、12 歳でドイツに留学し勉学に励みます。その作風はロマン派の中にも印象主義的な傾向が顕著で、「イギリスのドビュッシー」と呼ばれました。音楽以外にも活動は多彩で、詩人、哲学者、作家として活躍していました。

「タラハシー組曲」は 1910 年に書かれ、ヴァイオリンの巨匠エフレム・ジンバリストに捧げられました。「タラハシー」とはフロリダの州都の名前です。